

森林

レンジャー がゆく

(7)

産業祭は森の入口

チェンソーを担いで山に登り、道なき沢に登り、地域の方に教えていただきながら一緒に活動し、レンジャーとなつてから8か月がたちます。今までの主な活動は、地域の方との昔道整備、植樹や下草刈り、森林の現況調査と見所発掘、巡視、登山道の倒木や危険木処理、景観整備、動植物調査など多岐にわたります。そのほかにも子どもたちを対象とした自然体験を実施しています。ここで

は、産業祭で実施した自然体験について紹介します。

「どんぐりって知ってる？」この問いかけに子どもたちは、そんなの知ってるよ！と言わんばかりに一齐に話し出します。「じゃあ、



どんぐり知ってるよ！
ほんとかない？！

どんぐりは食べられる？」知っているようで、実は知らないどんぐり。子どもたちの好奇心を呼び起こしゲームスタート！どんぐりを集めビンゴを完成するゲームに、子どもたちは夢中でどんぐりを拾います。「この実はなに？」と、どんぐり以外の実や種を発見する子もいます。答え合わせでは、できたビンゴの数に満足顔です。高揚した雰囲気の中、体験を振り返る学びの時間をとりました。「ハイロチョッキリ」という虫が開けたどんぐりの穴やリスの貯食の話を通して、子どもたちが集めたどんぐりは虫にも動物にも大切なもので、どんぐりもまた虫や動物を必要としていること、それぞれが森づくりに

おいて大切な役割を果たすことを体験しました。そして、子どもたちにも森づくりに参加してほしいとの思いでどんぐりの種と一緒に植えました。みんなの肩位まで苗が成長したら将来「恵みの森」に植えようねと約束しました。最後に、フライパンで炒ったどんぐりを試食。始まりの時はどんぐりなんて食べたたくないと言っていた子どもたちの、おもしろいと言った食べた笑顔が印象的でした。

自ら発見し体験したことは子どもだけではなく大人の心にも残ります。今後、あきる野の自然を再発見するよう楽しい自然体験を企画しますので、ぜひご参加ください。

加瀬澤恭子